

会社によるJR東労組組合員への脱退強要＝違法行為を絶対許さない！

～人の心・命を大切にして、安全を最優先する風通しのよい、安心感の持てる職場をもう一度創り出そう！～

「社員の皆さんへ」や勤労速報など交渉内容を掲示して、JR東労組批判を繰り返し、常軌を逸した脱退強要が公然と行われている。「今辞めないとお世にひびく」「辞めないとお試験に受からない」「脱退理由は『自分の意志です』とのみ言うこと」などの利益誘導で、脱退を目的化している。

2月9日以降の野球部、三河島駅の脱退を皮切りに、2月12日産経新聞報道の直後「社員の皆さんへ」を掲示、連日経営幹部が職場を訪問、一方的に社員へ訓示し、その後に脱退者が続出している。闘争指令が出される前から、用意周到に準備が行われ画策されていたのだ。

職場は萎縮し異様に静まり返り、疑心暗鬼の状態に陥り、精神的に追い詰められ、仕事どころではなくなっている。職場秩序を壊しているのは明らかに会社であり、もはや春闘やストの次元ではなくなっている。この目的は、JR東労組破壊と御用組合づくりだ。そして、モノを言わない社員と職場、モノを言わない労働組合づくりがめざされている。支社では「脱退しないと決裁承認しない」など「命令と服従」の関係だ。弁護士は「これらの異常な行動・言動は、明らかに会社の総力をあげた支配介入であり、労働組合組織破壊工作である」と述べ「負けるな」と激励を受けている。

2月23日の闘争第1号の団体交渉で「ベアの実施にあたっては、これまでベアの算出基礎にしてきた所定昇給額にこだわらない」ことを確認した。また「18春闘で初めて明らかにした生産性向上分の算出にあたって、所定昇給額にこだわらない」ことも確認した。しかし、2月25日の「社員の皆さんへ」や「勤労速報」では、その確認に誤りがあるかのように「認識の一致は図られていない」として、対立構造を意図的に煽っている。2月26日の団体交渉でも再確認しているが、今度は「JR東労組が明らかに事実と反する労使間の交渉内容に係る見解を喧伝したのみならず、争議行為を予告したことは信頼関係を破壊し、労使共同宣言の趣旨・精神を否定したもの」とし「労使共同宣言」の失効を一方的に通知してきた。そもそも、職場活動の規制と排除以降、議事録確認の削除や組合色調査による役員の差別人事、組合破壊のマニュアル「4本柱」などを仕掛け、労使の信頼関係を壊してきたのは会社側であり、そのことを忘れてはいけない。裁判所や都労委から断罪され、その非を認めてきた矢先であり、厚顔無恥とはこのことだ。

団体交渉で労使が確認したことを何度も覆し、「労使共同宣言」の失効を通知するのはなぜか。JR東労組破壊のためには、労使共同宣言を破棄し、対立の構図を意図的につくらなければならないからである。24日の闘争指令の解除で、シナリオが狂い、躍起になって紛争状態を会社自ら描き出しているのだ。そもそも、労使共同宣言の精神である信義誠実な議論も、紛争状態の解決も初めから考えていないのだ。脱退強要のためには、会社はどうしても「ストライキ(争議)組合」と描き出さなくてはならない。労使共同宣言を失効させ、組合員に揺さぶりをかけ、脱退の御旗にして煽っているのだ。

今春闘の争点であった「所定昇給額の算出基礎にこだわらない」ことを確認できたのは、私たちが「格差ベアの是正に限定」してスト権を確立し、闘争体制を配置し、団体交渉力を高めたことによる前進である。しかし、会社は確認したことを覆すことを繰り返しているのであり、幻想を持ってはいけない。その要求が実現すれば、闘争指令を解除するのは当たり前である。しかし、紛争状態に終止符が打たれたにも関わらず、脱退強要は勢いを増している。この会社は、社員のこと、現場の苦労や安全輸送なども考えていないのは明らかだ。真剣に考えていけば、このような大掛かりな脱退強要などあり得ない。「法令遵守」の言葉がむなしく聞こえてしょうがない。

東京地本のホームページに寄せられた声だが「組合対会社のように見えるが、今回の脱退工作の糸を引いたのは本社の部長など一部の暴走した幹部。悪事はいずれ明るみに出て、彼らは処分を受けることになる。そんな連中のために脱退工作を手伝ってもハシゴを外される。それを真に受けて脱退しても自分が損するだけ。みんな立ち止まって考えよう。おかしいと思ったら従わない。脱退強要の不幸な連鎖は自分の所で止める。歯車が完全に壊れてしまったら、会社も職場も元には戻れない。今なら踏みとどまれる」と冷静に分析し、心ある人が経営側にもいることが救いだ。

組合員の皆さん！一時の空気に流されず、何が正しいか判断して下さい。

この会社は今、人間として、そして鉄道人の良心と倫理観を失い、人権を踏みとじている。会社の脱退強要は、労働組合法第7条の不当労働行為であり犯罪だ。東京地本は、このような組織破壊攻撃には一切屈せず、断固たたかう。経営の本質を見抜き、JR東労組の旗の下に総団結し、安全で安心感の持てる職場を創り出そう！

2018年2月27日

JR東労組東京地本 春のたたかい 総決起集会